

# 甲佐町立白旗小学校

(平成 21・22 年度文部科学省人権教育研究指定校)

## I 研究の概要

### 1 研究主題

#### 豊かに学びつながらあう子の育成

～言葉を大切にしたい確かな学力の向上と豊かな人間関係づくりを目指す学習活動～

#### 「豊かに学びつながらあう子」とは

人とかかわりの中で、自分の考えを表現し、他の人の思いや考えを大切に、確かな学力を身に付けながら、互いに認め合い支え合うなかで、自分たちの生活をよりよくしていく子と考える。そして、目指す具体的な子どもの姿として、次の3つの力を身に付けた児童と捉える。

- 人とかかわる力 : 自分の思いや考えを伝えたり、他の人の思いや考えをしっかりと受けとめたり、互いにわかり合うことができる。
- 確かな学力 : 基礎的・基本的な知識・技能を習得し、それらを活用して主体的に課題を解決することができる。
- 行動する力 : 生活の中の課題に気づき、考え、行動して、自分たちの生活をよりよくすることができる。

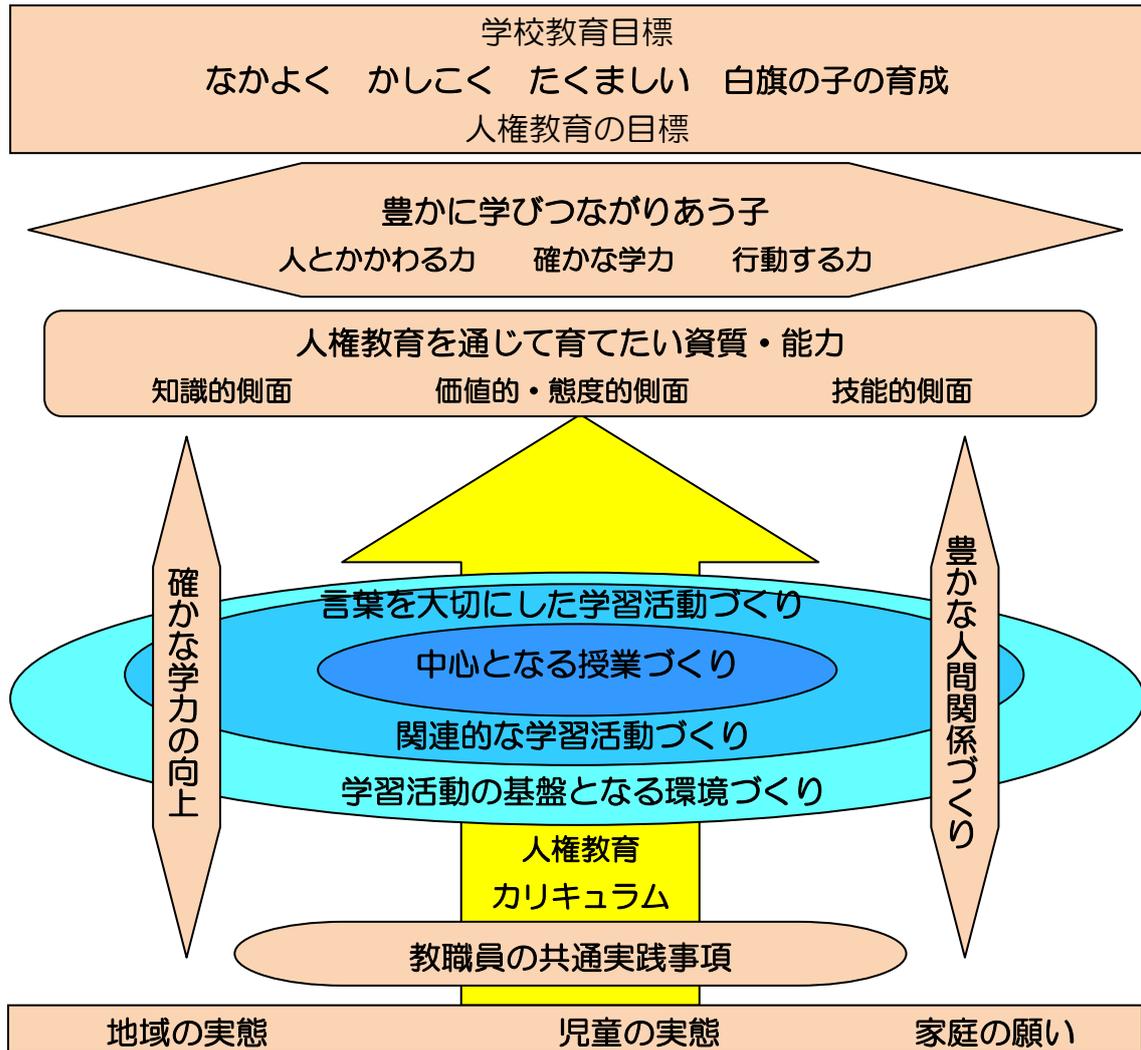
#### 「言葉を大切にしたい学習活動」とは

言葉を通して、互いの思いや考えを認め合い、共に学びを深めて、主体的に行動できる学習活動。この学習活動を通して、確かな学力の向上と豊かな人間関係づくりを目指していくものとする。

## 2 研究の仮説

全ての教育活動を通して、確かな学力の向上と豊かな人間関係づくりを目指す言葉を大切にしたい学習活動とそれらの基盤となる環境づくりを行えば、人権教育を通じて育てたい資質・能力が身に付き、豊かに学びつながらあう子が育成できるであろう。

3 研究の構想  
 (1) 研究構想図



(2) 人権教育を通じて育てたい資質・能力

「豊かに学びつながりあう子」を支える力を、「人とかかわる力」、「確かな学力」、「行動する力」と捉えた。そして、それらの力を身に付けさせるために必要な資質・能力として、〔第三次とりまとめ〕を参照して次表のとおり設定した。

白旗小学校「人権教育を通じて育てたい資質・能力」

	知識的側面	価値的・態度的側面	技能的側面
①	人権尊重の概念に関する知識	自他を尊重しようとする肯定的態度	相違を容認できる技能
②	人権に関する歴史や現状についての知識	他者の思いを共感的に受容する態度	適切なコミュニケーション技能
③	人権課題の解決に必要な概念に関する知識	主体的に生活を向上させる態度	豊かな関係を築く社会的技能
④			偏見・差別を見きわめる技能
⑤			協力的・建設的に解決する技能
⑥			情報を吟味し分析する技能

### (3) 研究の視点

#### ① 言葉を大切にしたい学習活動づくり

言葉の力、言葉の背景にある心、言葉と心を豊かにする体験を柱に、「言葉への着目」、「聴き合い・学び合い」、「日常へのつながり」の3つの手立てを大切にしたい授業づくりとそれらと関連する学習活動づくりに取り組む。

言葉の力を高める学習活動	言葉の背景にある心を見つめる学習活動	体験を通して言葉と心を豊かにする学習活動
言葉を通して思考力・判断力・表現力を育成し、互いの立場や考えを尊重して言葉で伝え合う力を高めていく学習活動	友達の発言や文章中の会話・行動の背景にある心を自分の様々な経験を交えながら理解し、共感していく学習活動	白旗の人・もの・ことに出会う体験活動を通して、感じたことなどを言葉で表現しながら、自分のふるさとや生き方を考えていく学習活動

#### ② 学習活動の基盤となる環境づくり

言葉を大切にしたい学習活動を充実させるために、「基本的生活・学習習慣の定着」、「校内環境の工夫」、「家庭・地域との連携」の3側面から環境づくりに取り組む。

〈具体的実践内容〉

		中心となる授業づくり	関連的な学習活動づくり
言葉を大切にしたい学習づくり	言葉の力を高める学習活動	○国語科を中核とした教科学習を中心として	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-bottom: 5px;">手立て</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・・・</li> <li>日聴言常き葉へ合へのいのつ・着な学目ぎび合い</li> </ul>
	言葉の背景にある心を見つめる学習活動	○道徳・学級活動を中心として	
	体験を通して言葉と心を豊かにする学習活動	○生活科・総合的な学習の時間・生活単元学習を中心として	
学習活動の基盤となる環境づくり	基本的生活・学習習慣の定着	校内環境の工夫	家庭・地域との連携
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的生活習慣「4つのあ」の取組推進</li> <li>・学習訓練「こうさっこのまなび」の徹底</li> <li>・聞き方、話し方名人の定着</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉のひろばの活用</li> <li>・心の伝言板の活用</li> <li>・朝の会、帰りの会の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノーテレビ・ノーゲームデーの取組</li> <li>・町民センターとの連携</li> <li>・家庭・地域への啓発、アンケートの活用</li> </ul>

### (4) 人権教育カリキュラム（人権教育年間指導計画）

前項(2)(3)を踏まえ、教科・領域等との関連を図った各学年の人権教育カリキュラムを作成し、全ての教育活動を通して人権教育を推進する。

第1学年人権教育年間指導計画

		言葉を大切にしたい学習活動 中心となる授業づくり				関連的な活動 学習づくり			活動と環境 学習の基盤づくり		
月	言葉の力を高める学習活動 (国語科を中心として)	言葉の背景にある心を見つめる学習活動 (道徳・学級活動を中心として)		体験を通して言葉と心を豊かにする学習活動 (生活・総合的な学習の時間を中心として)	関連的な活動 学習づくり			活動と環境 学習の基盤づくり			
		道徳	学級活動		力	心	体	基	校	家	
4	自分の名前を書き、名刺交換をしよう(国:4) 技②	へいのらくがき(黙っていないで)(道)知②技②	学級のめあてをきめよう(学1) 価②価③	友	花	音	人	縦	基	校	家
5	先生方とお話をしよう(国:4) 技②技③	(道) ぼくうれしかったよ ~なつやすみのとも~ 知②価②技②		達	い	読	権	割	本	言	ノ
6	相手のことを考えて手紙を書こう(国:4) 価①価②			はしのうえのおおかみ(だれにでもやさしく)	にな	っぱ	集	集	り	質	葉
7				ら	い	会	会	班	的	の	レ
				ろ	っ	①	③	活	生	ひ	ビ
				う	ぱ	③	④	動	活	ろ	・
				よ	い	技	技	④	④	ば	ノ
				価	い	①	②	③	③	の	ー
				①	っ	学	心	愛	③	活	ゲ
				価	ぱ	び	の	校	③	③	ー
				②	い	学	表	の	③	③	テ
				種	っ	び	彰	日	③	③	ー
				ま	ぱ	学	・	の	③	③	の
					ま	び	価	の	③	③	取
						ま	①	日	③	③	組
						ま	②	の	③	③	・
						ま	②	の	③	③	価

(5) 教職員の共通実践事項

全ての教育活動を通して人権教育の推進を図っていくには、日々の教育実践の中で教職員自身が自分の言動等を常に意識して取り組んでいくことが重要と考え、[第三次とりまとめ]を参照して「教職員の共通実践事項」を作成した。

- 1 言葉を大切にしたい学習活動づくりのために
  - (1) 言葉かけの工夫
    - ・互いの発言を最後まで聴き合い、誤答を大切にしよう言葉かけ
    - ・互いの考えや行動のよさを見つめ合わせる言葉かけ
    - ・学習したことが児童の日常生活につながる言葉かけ
  - (2) 場の工夫
    - ・意図的な指名や発言のない児童への配慮等、一人一人が活躍する場の設定
    - ・協同する体験を通して、自己有用感や帰属意識・参画意識をもたせる場の工夫
- 2 学習活動の基盤となる環境づくりのために
  - (1) 掲示の工夫
    - ・学習成果物への肯定的コメントの記入や児童同士のコミュニケーション力を高める掲示
    - ・児童が主体的に人権意識を高めていく掲示
  - (2) 日常的な言動の見直し
    - ・教職員自身の日常的な言葉づかいの見直し
    - ・児童の変化の見取りと適切な言葉かけ
    - ・一人一人の児童を大切にしたい認め、ほめ、励まし、伸ばす取組

(6) 研究組織

校 長	教 頭	推 進 委 員 会	全 体 会	学年部会	低学年部	中学年部	高学年部
				専門部会	まなび部 (言葉の力を高める学習活動)	つながり部 (言葉の背景にある心を見つめる学習活動)	いきいき部 (体験を通して言葉と心を豊かにする学習活動)

## Ⅱ 研究の内容

### 1 言葉を大切にした学習活動

#### (1) 言葉の力を高める学習活動

「言葉の力を高める学習活動」とは、言葉を通して思考力・判断力・表現力を育成し、互いの立場や考えを尊重して言葉で伝え合う力を高める学習活動である。

#### ① 具体的な手立て

##### ア 言葉への着目

###### ○ 発問の工夫

教材文中のどの言葉や文に着目させるかを明確にし、児童の考えが広がるような発問の工夫を行う。

###### ○ セルフトークの活用

ノートやシートに書いた自分の考えの中で伝えたい言葉等に着目させ、自分の考えを整理し要約して話すことができるようにセルフトークの時間を取り入れる。

##### イ 聴き合い・学び合い

###### ○ ペアトーク・グループトークの位置付け

隣席同士によるペアトークや小集団によるグループトークなど協同学習を取り入れ、発表することに自信をもたせたり自分の考えと比較させたりしてお互いの考えを聴き合う態度を育成する。

###### ○ クラストークの工夫

学級全体で発表し合うクラストークにより、より多様な考えを出し合う中で自分の考えと比較しながら友達の考えを聴き、友達の考えを認めながら自分の考えを高めていく。

##### ウ 日常へのつなぎ

###### ○ 学習活動の振り返りの工夫

週末において、振り返りの時間を設定することにより、学習内容の達成感や自己有用感をもたせ、次の学習や日常生活への意欲付けを行う。

###### ○ 教材文と自分の生活との重ね

教材文を通して、感じたことや考えたことを自分自身の生活に重ねさせる。

#### ② 中心となる授業づくりの例

第3学年 国語 本と友達になろう「3年とうげ」（光村図書 3年上）

##### ア 単元の目標

○ お話の展開や表現を楽しみ、友達と感想を交流して、それぞれの感じ方の違いに気付くことができる。

○ 図書館での本の分け方を知り、自分が探して読んだ本について書き方を工夫して帯を作り、友達に紹介することができる。

## イ 育てたい資質・能力

- 感想を交流することでお互いの考え方の違いを認め合うことができる。(技①)
- 文章から想像したことや考えたことを相手にわかるように表現したり、相手の考えを傾聴したりして理解することができる。(技②)

## ウ 授業の様子と子どもの姿

### ○ 言葉への着目

「えいやら～こりゃめでたい」の言葉に着目し「誰が何のために歌ったのか。」を中心発問として考えさせた。そして、根拠を文章から探し出し、その文章から想像する自分の考えを出させるようにした。

### ○ 聴き合い・学び合い

ペアトークにおいて、相手の考えを傾聴し、相手の考えをまとめて復唱する活動を取り入れた。

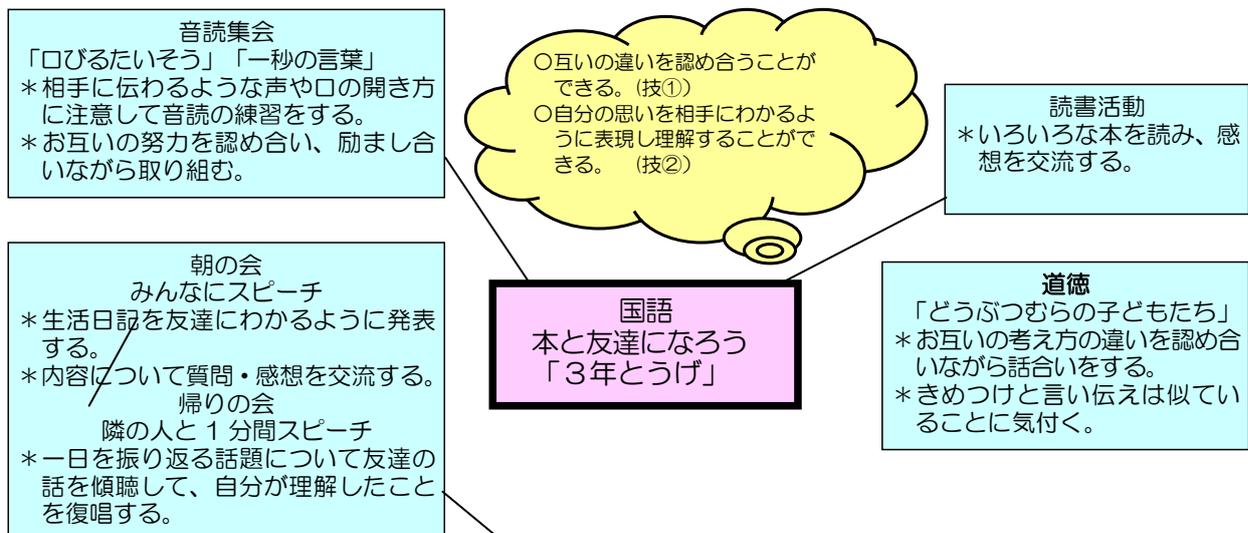
### ○ 日常へのつなぎ

お互いの考えについて感想を出し合う場において、友達の考えのよいところや参考になった点などを発表させた。



ペアトークで自分の考えを伝え合う児童

## エ 他の学習活動との関連



日常的に友達の話に対して、傾聴の態度を身に付けさせるため、帰りの会の内容の一つに「1分間スピーチ」を取り入れた。教師から日常生活に関する「お題」を提案し、そのテーマについて、隣席の児童にスピーチをする。相手が何を言いたかったのか、「〇〇さんは、～だったから～と思ったのですね。」というように傾聴の姿勢で復唱する場を設定した。

### ③関連的な学習活動づくり

#### ア 音読集会

音読集会に向けて取り組むことで、児童は一緒に息を合わせ、声を合わせることの喜びを感じることができる。発表する学年は、特に、友達のよいところを認めながら協力し、発表した後は他の学年からよかったところを認められることで、達成感を味わうことができる。また、人前で声を出すことは、自分の思いや考えを表現するための基本である。声の大きさや口形、姿勢など様々な面から相手に伝わる声の出し方を学ぶことも意識させていった。



音読集会で発表する5年生児童

#### イ 読書活動

幅広い読書活動は、心を耕し、豊かな知性と感性を育てる上で大きな役割を担っている。また、読書を通して感想を出し合ったり、読み聞かせ(PTA・図書委員会・親子読書)を行ったりすることで、人とかかわることができる。さらに、本学習活動がねらう表現の仕方や言葉に対する理解を深めることを意識しながら取り組んでいる。



PTAによる読み聞かせ

#### ウ 学びタイム、続けタイム

児童一人一人の違いは、学び方の違いとも重なる。学びタイム、続けタイムの時間では、児童一人一人の理解度に合わせた指導を行うために、担任外も一緒に入って指導を行っている。児童同士もお互いの進捗状況を確認しながら、聞き合ったり教え合ったりしている。学びタイムでは、「ゆうチャレンジ」を活用して、思考力や表現力を身に付けるための問題に取り組んでいる。続けタイムは、続けることに意義をもたせ掃除終了後5～10分程度の時間を使って、「視写」を中心として取り組み、文章の書き方や言葉のつかい方、表記の仕方などに触れることができている。



学びタイムの様子

#### エ 漢字・計算大会

思考力や表現力をはぐくむ上で、漢字が読めること、計算ができることは基本的な学習事項である。また、思考することや表現することが苦手な児童にとっても「練習すれば覚えられる」という学習意欲をもたせることができる。また、お互いの得意・不得意にも気付かせながら、頑張っている姿を認め合うこともねら

って取り組んでいる。賞状や合格証なども教師の方で準備しておき、励みにして取り組ませているが、学級によっては、個人やクラスの目標を掲げ、児童同士が認め合う場を設定して、取り組ませている。

## (2) 言葉の背景にある心を見つめる学習活動

「言葉の背景にある心を見つめる学習活動」とは、友達の発言や文章中の会話・行動の背景にある心を、自分の様々な経験を交えながら理解し、共感していく学習活動である。

### ① 具体的な手立て

#### ア 言葉への着目

##### ○ 役割演技の活用

特に低・中学年では、登場人物になりきって演技させることで、登場人物の言葉に着目させ、その背景にある気持ちをより深く想像できるようにする。

##### ○ 学習シートの活用

特に児童に考えさせたい言葉を学習シートに記載し、その言葉に着目させ多様な考えを引き出すようにする。

#### イ 聴き合い・学び合い

##### ○ 小集団で話し合う過程の位置付け

2人組でのペアトークや小集団でのグループトークを位置付けて、自分の思いを出しやすい雰囲気の中で自信をもって発言できるようにする。

##### ○ 意図的指名や補助発問の工夫

事前に把握しておいた児童の経験を引き出すような意図的指名を行うとともに、児童の多様な考えを引き出したり、思考を深めたりするための補助発問の工夫を行っていく。

#### ウ 日常へのつなぎ

##### ○ 自分を見つめる場の設定

学習した価値と日常の自分の言動を重ねる場面を授業の中に設定し、日常化を図る。

##### ○ 授業後の見取り

授業後の日常生活における様々な場面での児童の行動を見つめ、必要に応じて価値へのフィードバックにつながる指導を行う

### ② 中心となる授業づくり

第1学年 道徳「ぼく うれしかったよ」(夏休みの友 一部改作)

#### ア 本題材の目標

- 自分の思いを伝えることの大切さがわかり、友達の思いや考えを知って、仲よく助け合おうとする態度を養う。

#### イ 育てたい資質・能力

- 自分の回りのおかしさをなくしていけることがわかる。(知②)
- 友達の思いや考えを知ろうとする。(価②)

- 自分の思いを表現し、相手の思いを聴くことができる。(技②)

#### ウ 授業の様子と児童の姿

- 言葉への着目

児童が資料中の主人公のひろし役になり、担任は相手役のたけしになって役割演技を行った。役割演技をする前に、シートに書く時間を設けていて、全員が自分なりの考えをもって参加することができた。



役割演技の様子

- 聴き合い・学び合い

児童の言葉に対して、意図的に担任が問いかけていったことで、その問いかけに一生懸命に答えようとして、児童がさらに自分なりの考えを深めていった。まだ、自分の気持ちを十分に言い表せない1年生の児童にとっては、担任とのやりとりを通して、より自分の気持ちを表現できる機会になるとともに、友達の言葉にこめられた思いや考えを知ることができた。

- 日常へのつなぎ

まとめる過程で振り返る時間を設けた。ひろしがあやまってわかり合えたことを踏まえ、感想を聞くと「借りたものを返してくれない時、きちんと言ったら返してくれた。」など日常の体験と重なる発言が見られた。また、担任の経験に基づいた説話を最後に話すことで、今回の授業をさらに日常につなぐように工夫した。

#### エ 他の学習活動との関連

帰りの会  
\*「きらりんタイム」の中で友達のいいところを見つけて発表する。

<本題材>  
道徳  
「ぼく うれしかったよ」

○ 自分の回りのおかしさをなくしていけることがわかる(知②)  
○ 友達の思いや考えを知ろうとする。(徳②)  
○ 自分の思いを表現し、相手の思いを聴くことができる。(技②)

人権集会  
\*児童会からの提案を受けて学習したことを重ねて意見を発表する。

帰りの会の中に、友達のいいところを探して発表するきらりんタイムを6月から位置付けて取り組んでいる。そして、発表で出た意見は、葉の形に切った画用紙に書いて、教室に掲示をしている。本時の学習の導入では、うれしかったことを想起させる目的で、これまでのきらりん葉っぱの紹介を行った。児童は、本題材名「ぼく うれしかったよ」のうれしかったと重ねて学習を始めることができ

た。授業後は、きらりんタイムを発展させ、うれしかったことだけでなく、みんなに言いたいことも交えて発表できる場にしていった。人権集会との関連では、本時の授業で学んだ「みんなに伝えることでわかり合える」という価値を、児童会から提案のあった「ひそひそ話をなくすにはどうしたらいいか」の答えとして意見を発表することができた。

### ③関連的な学習活動づくり

#### ア 人権集会

本校では、人権集会を「人権旬間で学習したことを踏まえながら、みんなに伝えたいことを自分の言葉で表現し、友達の思いや考えを理解し、お互いにつながり合う場」として捉えている。集会の中は、人権旬間で学んだことを発表するだけではなく、児童会を中心に自分たちの生活の中での課題に注目し、自分たちの生活をさらによりよくしていくために話し合いを行っている。本年度は、「自分の気持ちをやさしい言葉で相手に伝えよう」というテーマで取り組んでいる。



1年生からの意見発表



本年度のテーマ

#### イ いのちの日の集会

12年前の本校の水の事故を忘れず、いのちの尊さと健康・安全について考え、心を見つめる場として、毎月18日を「いのちの日」と設定している。そして、その日に集会を開き、全教職員が交代で講話をする。その内容は、広く「いのち」に関する内容であり、心の温まる言葉など様々だが、全て体験に基づいた内容である。話の後は、児童の生活や体験と重ねて感想を出し合う場を設定している。



「いのちの日」の話

#### ウ つながりタイム

児童同士がよりよい関係を築くため、業間の時間を利用してソーシャルスキルトレーニングやエンカウンター等の活動を実施している。活動後には、感想や気付きを出し合う時間を設け、自分の存在を認識させるとともに、自尊感情を高め、お互いを知り合い、つながり合おうとする態度を養っている。



#### エ 心の表彰

日常生活において、児童同士がつながり合っているという実感を共有できる場として、毎学期の終業式の中で心の表彰を行っている。この心の表彰は、全児童が自分が気付いた友達の頑張りや優しさ、心温まる出来事についてカードに書いて紹介し、紹介した相手に直接手渡しをするという



心の表彰カード

活動である。終業式の中では代表して各学年1～2名の表彰を行う形になるが、この心の表彰の取組は、児童がこれまでの学習を休み時間、掃除の時間・登下校時などの日常へつなぐ具体的な場面ともなっている。

### (3) 体験を通して言葉と心を豊かにする学習活動

「体験を通して言葉と心を豊かにする学習活動」とは、白旗の人・もの・ことに出会う体験活動を通して、感じたことなどを言葉で表現しながら、自分のふるさとや生き方を考えていく学習活動である。

#### ① 具体的な手立て

##### ア 言葉への着目

###### ○ 価値ある体験活動の設定

白旗の人・もの・ことに直接かかわる体験活動を取り入れることで、白旗の人の言葉の背景にある思いや願いを考えたり、実感を伴った言葉を引き出したりする。

###### ○ 体験を通して感じたことや考えたことを言葉で表現させる場の設定

体験したことを、学習シートなどに言葉で整理したり分析したりしてまとめることで、自分の考えを深める。

##### イ 聴き合い・学び合い

###### ○ 伝え合う場の工夫

グループで調査した内容をまとめたり、話し合いをしたりすることを通して、お互いの考えのよさや違いを認め合い、自分の考えを深める。

###### ○ 協同学習の積極的活用

同じ課題意識のあるグループ内で自分の考えや思いを発表し合ったり、学級全体で意見を交流したりしながらみんなで解決していく。

##### ウ 日常へのつなぎ

###### ○ 自分と重ねて考えさせる場の工夫

白旗の人の思いにふれさせることで、自分の生活を振り返る。

#### ② 中心となる授業づくり

第1学年 生活科「むかしからのあそび～めざせ！むかしあそびめいじん～」

(教育出版 せいかつか下)

##### ア 単元の目標

○ 昔の遊びを地域の年長者の方から習ったり、身近な物を使って遊びを工夫したりして、友達や保育園児と一緒に昔の遊びを楽しむことができる。

##### イ 育てたい資質・能力

○ 自分の家族を中心とした年長者とかかわることで、自分や友だちの家族の思いや優しさにふれ、自分が大切にされていることがわかる。(知①)

○ 自分の考えと比べながら、友達の思いや考えを聴くことができる。(価②)

○ 遊びやルールを考えたり、身近な人々と交流したりする体験活動を通して得た気付きを言葉などで表現することができる。

(技②)

##### ウ 授業の様子と子どもの姿

###### ○ 言葉への着目



お手玉を教わっている様子

地域の年長者や保育園児、友達といった身近な人々とのかかわりを大切にしたい体験活動を通して得た気づきを、言葉や絵でシートに表現していった。

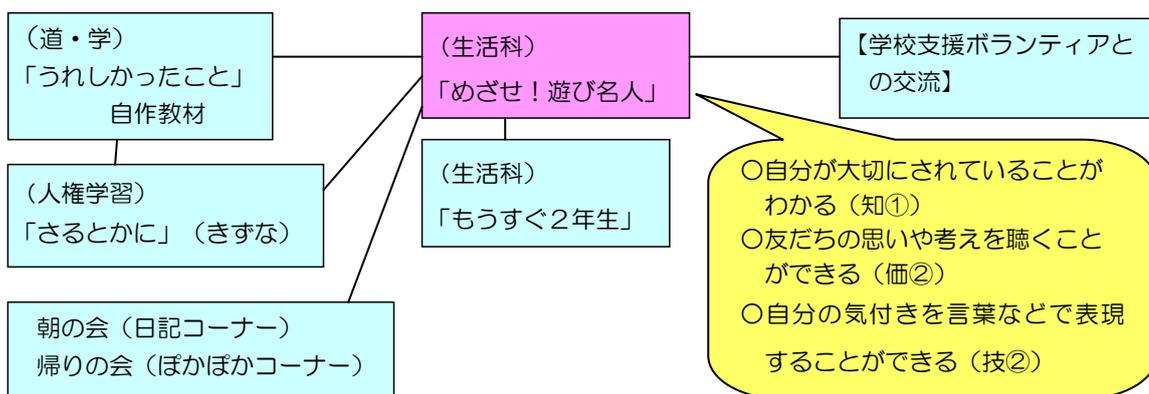
○ 聴き合い・学び合い

友達と一緒に試行錯誤しながら遊び道具を作ったり、ルールを考えたりしていくと同時に、自分の考えをグループで交流する場を設定した。

○ 日常へのつなぎ

身近な人々にかかわる体験活動を通して、保育所の職員や地域の高齢者等とかかわったり、自分や友達の家族の思いや優しさに触れることができた。

エ 他の学習活動との関連



③ 関連的な学習活動づくり

ア 縦割り班活動

異学年集団における活動を行うことにより、児童同士のかかわりを広げ、お互いが助け合う態度を養うことをねらっている。業間活動では、縦割り班ごとの遊びやルールを考えて一緒に遊ぶ取組を行っている。また、運動会においてもこの縦割り班によって団を結成し、リレーなどにも取り組んでいる。



ルールを決めながら遊ぶ児童

イ 愛校の日の活動

栽培活動や一人一鉢運動等、植物を育てる活動を通して、命の大切さを学び、校舎内外の美化作業を通して、自分たちの学校に愛着をもつようになる。毎週木曜日の掃除の時間を利用して行っている。



協力し合う児童

ウ 学びの森の学習

本校運動場に隣接する白旗山の斜面を遊びの場としてばかりではなく、学びの場としても活用するために、平成19年度から県農林水産部の「学びの森活動推進事業」に取り組んでいる。地域の森林組合や農家の方々との交流を図りながらシイタケ栽培や



シイタケの収穫

竹炭づくり、巣箱づくり、野鳥観察等の自然体験学習を毎年実施している。

## エ 学校支援ボランティアとの交流

地域に在住の年長者の方から生活の知恵等を教えていただくことにより、その方々の生き方に触れたり、白旗のよさに気付いたりすることをねらっている。具体的には、生活科・総合的な学習の時間における学習支援や登下校時の交通指導等、自分の得意領域で協力できる「学校支援ボランティア」の人材バンクを作り、世代間交流を積極的に行っている。

## 2 学習活動の基盤となる環境づくり

### (1) 基本的な生活・学習習慣の定着

#### ① 基本的な生活習慣「4つのあ」の取組推進

規律ある生活は、お互いの人権を尊重する基盤となる。自分も友達も安心して楽しく過ごせ、お互いを大切にすることを目的として、心がけよう「4つのあ」（「あんぜん」「あいさつ」「あいず」「あとしまつ」）に取り組んだ。廊下に「4つのあ」のパネルを掲示し、視覚的にも意識できるようにしている。



「4つのあ」の掲示

#### ② 基本的な学習習慣「こうさっこのまなび これだけは」の徹底

学習の仕方を掲示することは児童が安心して学べる環境を整えることである。学習の始まり・終わりのあいさつや学習道具、家庭学習についてなど学習における最低限の約束事として取り組ませている。



筆箱をお互いにチェック

#### ③ 聞き方名人・話し方名人の定着

「伝え合う」活動の基盤となる聴き方・話し方の手引きとして「聞き方名人になろう」と「話し方名人になろう」に取り組んだ。国語科の内容「話すこと・聞くこと」を参照にして作成し取り組んだ。

#### きき方めいじんになろう（てい）

- ただししいせいできこう。
- さいごまでたたくきこう。
- かえしをしよう。
- いけんをつなげよう。
- ・はくしゅ                      ・うなずき（かお・ことば）
- ・おなじです。                  ・にています。
- ・ちがいます。                  ・ちょっとちがいます。
- ・ほかにもあります。
- ・おたずねがあります。
- ・こたえます。

#### はなしかためいじんになろう（てい）

- みんなをみよう。
- さいごまではっきりはなそう。
- ともだちとこうたいしながらはなそう。
- りゆうもいおう。
- （いけん） はい。わたしは、〇〇とおもいます。  
りゆうは、～だからです。
- （さんせい） わたしは、～さんのいけんとおなじ  
です。  
りゆうは、～だからです。
- （つけくわえ） ～さんにつけくわえます。

## (2) 校内環境の工夫

### ①言葉のひろば

自分の言葉づかいを視覚的に意識できるように「言葉のひろば」のコーナーを設け、日常的に見ることができるようになっている。内容としては「よびすてについて考えよう」「今朝は何人の人とあいさつできたかな?」「こんな時なんと伝えればいいかな?」等である。



言葉のひろばで見入る児童

### ②心の伝言板

「自分を大切にできるからこそ、他の人のことも大切にできる。」ということに気付くために、友達からしてもらってうれしかったことをメッセージカードに書く取組を行った。



子どもたちの心の伝言板

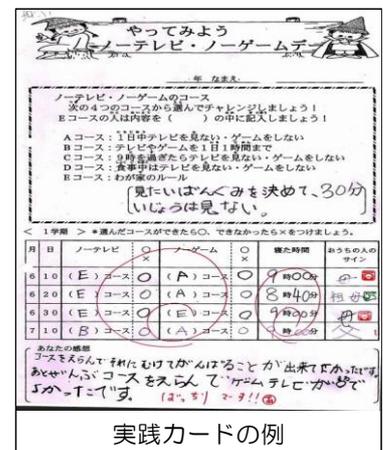
### ③朝の会・帰りの会の充実

自分や友達のよさを見つめ、認め合い、学級生活を向上させ、支持的風土づくりを行って行く場の1つに朝の会・帰りの会がある。友達のいいところやがんばりを見つけ、讃え合う実践として、1年生の「きらりんタイム」や2年生の「ぽかぽかコーナー」などの取組を行っている。

## (3) 家庭・地域との連携

### ①ノーテレビ・ノーゲームデーの取組

毎月、「0」のつく日を「ノーテレビ・ノーゲームデー」とし、家庭学習や親子のコミュニケーションの充実を図るため実施している。実施にあたっては、コースを5つ設定し、全児童が自分に合ったコースを選択できるように配慮している。その際、家庭からのコメントを記入できるカードを活用し、児童だけでなく保護者の意識の高揚も図っている。



実践カードの例

### ②町民センターとの連携

人権教育啓発の拠点として、校区内に町民センターが置かれている。学習会の在り方や運営の他に、職員の人権意識を高める場としても連携を図りながら本校の人権教育を進めている。本年度は、5月の子ども会開級式時に懇談会をもち、夏休み中に現地学習会(町民センター職員との情報交流)を行った。また、PTA授業参観時には参観を依頼し、連携を深めている。



現地学習の様子

### ③家庭・地域への啓発

児童の言葉づかいや人間関係づくりに関する様子を学校だよりや資料等で紹介したり、人権教育講演会等を実施したりして、家庭・地域への啓発に取り組んでいる。また、毎学期、児童や保護者に対するアンケートを実施し、学校の自己評価に活かすとともに、結果は学校だよりで知らせ、連携・啓発に努めている。

### Ⅲ 研究の成果

#### 1 目指す子どもの姿から

##### (1) 人とかかわる力について

育てたい資質・能力の中で共感的に受容する態度やコミュニケーション技能を重点項目とし、また、授業の中で「聴くこと」を大切にしたい手立てに取り組んだことで、お互いをわかり合おうとする意識が高まり、心とスキルの両面から友だちの言動に目を向ける児童が増えてきた。

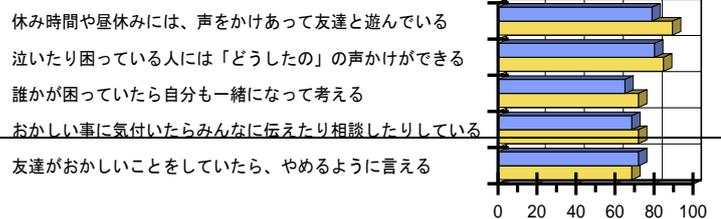
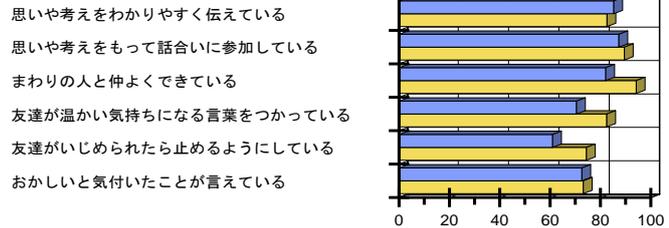
児童アンケートの結果においても「まわりの人と仲よくできている」、「友達が温かい気持ちになる言葉をつかっている」の項目で高

い伸びとして現れている。また、行動場面児童アンケートにおける友達とのかかわりの様子を問う項目のいずれにおいても、伸びが見られていることから人とかかわる力を身に付けつつあることがうかがえる。

##### (2) 確かな学力について

言葉を大切にしたい学習活動づくりでは、「言葉への着目」、「聴き合い・学び合い」、「日常へのつなぎ」という手立てに取り組んだことで、自分の思いや考えを伝えたり、相手の思いや考えを受けとめたりして、自分の学びを深めていこうとする児童の姿が見られるようになった。

このことは、前項の児童アンケートの「思いや考えをもって話合いに参加している」の項目や全国学力・学習状況調査の「普段の授業で自分の考えを発表す



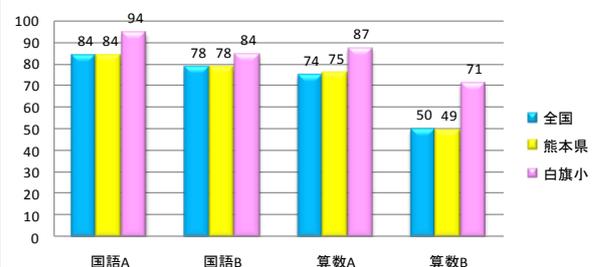
行動場面児童アンケート

(上段22年1学期・下段22年2学期調査)

#### 47 普段の授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていると思う。



#### H22 全国学力・学習状況調査結果

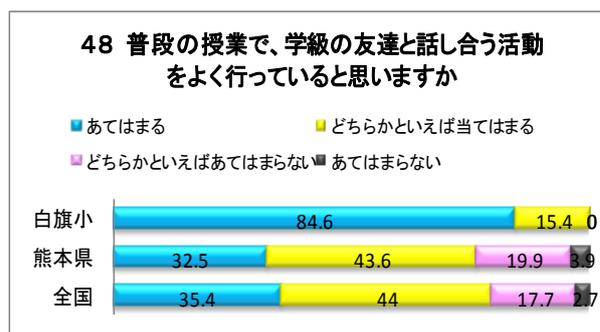


る機会が多い」や「普段の授業で、学級の友達と話し合う活動をよく行っている」の項目に該当すると答えた児童の割合が多いことからもうかがえる。

また、同じく全国学力・学習状況調査から学力の大きな伸びが見られたことは、学習活動づくりと環境づくりからの本校の取組が、学力の向上に結びついたものとする。

### (3) 行動する力について

自分たちの生活の中で起きた課題に対して、きちんと向かい合っていくとする児童の姿が見られるようになった。そして、友達や学級の仲間とともに、あるいは、教職員に相談しながらではあるが、自分たちが考えた方法で課題の解決に取り組んでいる姿を様々な場面で見られるようになった。これは、今までにはあまり見られなかったことであり、このことは、児童の生活場面での様子や変容を全職員で見取り、語り合ってきた成果の1つであると捉えている。



## 2 研究内容から

取り組んだ主な研究内容は、「人権教育を通じて育てたい資質・能力の作成」、「言葉を大切にした学習活動づくりとそれらの基盤となる環境づくりへの取組」、「人権教育カリキュラムの作成」、そして「教職員の共通実践事項の再確認」の4点であった。

まず、子どもたちの実態と課題から「育てたい資質・能力」を明らかにして様々な教育活動に取り組んだことで、授業だけでなくその授業と関連的な学習活動等を「資質・能力」という指標を通して効果的につないでいくことができた。

また、それらの多様な学習活動においては、知的活動やコミュニケーション、感性・情緒の基盤となる「言葉」に着目して取り組んだ。すなわち、全教育活動で言葉の力を高めることを目指すとともに、その言葉と心、体験とのつながりを大切にしていける取組を位置付けたカリキュラムを作成した。そのことにより、それぞれの学習活動において育てたい具体的な資質・能力を身に付けさせていく手立てが明確となり、確かな学力と同時に豊かな人間関係づくりも可能にすることができた。

最後に、私たち教職員の側が、「共通実践事項」をあらためて再確認したことは、私たち自身の人権感覚を常に問うことになった。すなわち、日々の教育活動の中で子どもたちが学んだことと日常の生活場面とを重ね合わせて働きかけることができたり、子どもたちの姿を的確に見取っていくことができたりすることにつながっていった。そのことは、人権や人権擁護に関する知的理解と人権感覚を子どもたちに身に付けさせていく上で有効であった。